

横浜市スポーツ推進計画の振り返りについて

目標 1	子どもの体力向上方策の推進
目標値	子どもの体力を横浜市の昭和 60 年頃の体力水準に回復します。
振り返り	昭和 60 年と比較できる項目において、中間見直し後から直近までの体力・運動能力調査結果の推移をみると、小学 5 年生は反復横跳び以外の項目が、中学 2 年生はほぼすべての項目が目標値に届いていないものの、横ばいの現状が続いている（下記、(1)達成状況ア、イ参照）。 昭和 60 年頃の体力に戻すという目標は達成していないが、子どもを取り巻く環境が大きく変わってきている中で、次期計画の目標値をどう設定していくのか、検討が必要である。
取組	別紙 1～7、14、17、19、21、30 を参照

(1) 達成状況

ア 体力・運動能力調査 昭和 60 年との比較 (赤字：目標を上回った、青字：目標を下回った)

【小学校 5 年生】

項目	小 5 男子				小 5 女子			
	S60	H29	H30	R1	S60	H29	H30	R1
握力 (kg)	17.35	16.22	16.15	16.02	16.23	15.47	15.48	15.50
反復横跳び (点)	36.66	38.87	38.79	38.70	36.20	36.77	36.49	36.69
50m 走 (秒)	9.22	9.38	9.41	9.44	9.46	9.65	9.71	9.68
ボール投げ (m)	28.82	21.65	21.50	20.84	16.42	12.49	12.35	12.27

【中学校 2 年生】

項目	中 2 男子				中 2 女子			
	S60	H29	H30	R1	S60	H29	H30	R1
握力 (kg)	30.16	27.95	27.85	27.65	24.19	23.14	23.40	23.08
持久走 (秒)	379.87	387.73	390.55	395.56	281.35	293.94	295.64	295.92
50m 走 (秒)	8.03	8.02	8.09	8.09	8.78	8.82	8.85	8.85
ボール投げ (m)	21.87	20.11	19.51	19.65	14.48	12.14	12.12	12.17

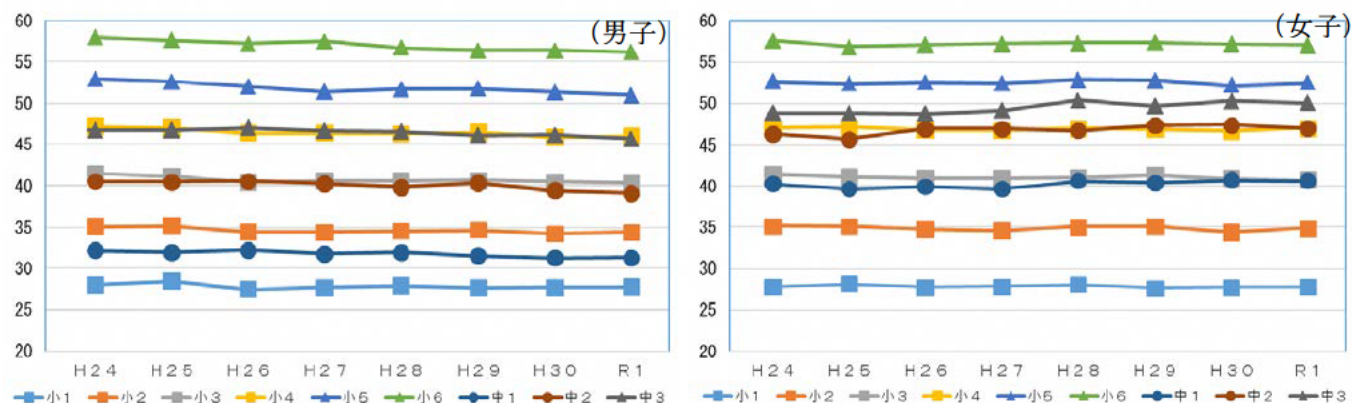
※ R2 は調査未実施

※ 反復横跳びは、20 秒間で、右、中央、左のラインを通過するごとに 1 点を与える。

※ 持久走は、男子 1,500m、女子 1,000m

※ ボール投げは、小学生はソフトボール、中学生はハンドボール

イ 体力・運動能力調査 体力合計点の推移



(2) 目標に対するこれまでの御意見（抜粋）

ア 目標設定の視点

- (ア) 子供を取り巻く環境が大きく変わってきている中で、昭和 60 年代の体力に戻すというような数値的な部分を強調するのではなく、運動・体育が好きだという子どもの数を増やしていくことが重要。
- (イ) 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、生き生きと生きていく力を育む、という視点での指導の充実。
- (ウ) 他者と自分を比較するのではなく、自分自身の成長の変化について目標を立てるという取組にすることで、達成感を得られ、スポーツの楽しさが分かる。

イ スポーツに関わる多様な機会の創出

- (ア) 運動会や球技大会のような体育的な行事や、地域イベント、トップスポーツチームと連携したオンラインでのプログラム、スポーツボランティアなど、運動やスポーツに多様に関わる機会の充実を目標に取り入れたい。
- (イ) 特に、部活動や地域のクラブに所属せず、スポーツをしていない子どもに対して、親子で楽しめる地域イベントなどを通じて、スポーツに関わる機会を提供する必要がある。
- (ウ) 「横浜らしい」取組について、横浜は非常にスポーツ資源が盛んで、多様な競技を身近に感じられるのが強みなので、選手と交流したり、小中学校で重点的に学ぶ競技などがあってもよい。
- (エ) スポーツについて学ぶ際、実際にアスリートなどから対面で学ぶことで、よりスポーツに興味を持ったり、熱量を感じられる。

目標 2 地域スポーツの振興	
目標値	<p>成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度（3人に2人）、週3回以上のスポーツ実施率が30%程度（3人に1人）となることを目標とします。</p> <p>また、スポーツボランティアを行ったことがある市民の割合が10%以上となることを目標とします。</p>
振り返り	<p>① <u>スポーツ実施率について</u></p> <p>成人の週1回以上のスポーツ実施率は、目標を0.5ポイント下回り、目標を達成していない。一方、成人の週3回以上のスポーツ実施率は、目標を3.5ポイント上回り、目標を達成した（下記、(1)達成状況を参照）。</p> <p>成人のスポーツ実施率は年々上昇傾向にあったものの、目標値には届いておらず、令和2年度になって実施率が大きく向上した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康への意識が高まったことや、自宅で過ごす時間が増え、健康・体力の維持・増進や運動不足解消のためにスポーツをする人が増えたためと考えられる。</p> <p>これを一過性のものとせず、持続させていくことが今後の課題である。</p> <p>また、女性のスポーツへの感じ方をみると、女性は男性と比較してどの年代もスポーツが「好きではない」の割合が高い。年齢別スポーツ非実施率では、40代、50代の割合が高く、この年代が比較的スポーツを実施していないことがわかる。（下記、(2)令和2年度横浜市民スポーツ意識調査の結果よりを参照）。</p> <p>以上のことから、女性や子育て世代、働き世代への働きかけも課題である。</p> <p>② <u>ボランティア参加率について</u></p> <p>ボランティア参加率は、目標を3.0ポイント下回り、目標を達成していない。</p> <p>平成25年度以降、参加率は横ばいであり、目標達成までどうボランティア参加に繋げるかが課題である。</p> <p>ボランティアに参加するようになるきっかけを聞いた調査では、「参加したい活動があれば」の割合が高いため、情報発信や広報に力を入れる取組なども検討していく。</p>
取組	別紙4、6～23、28を参照

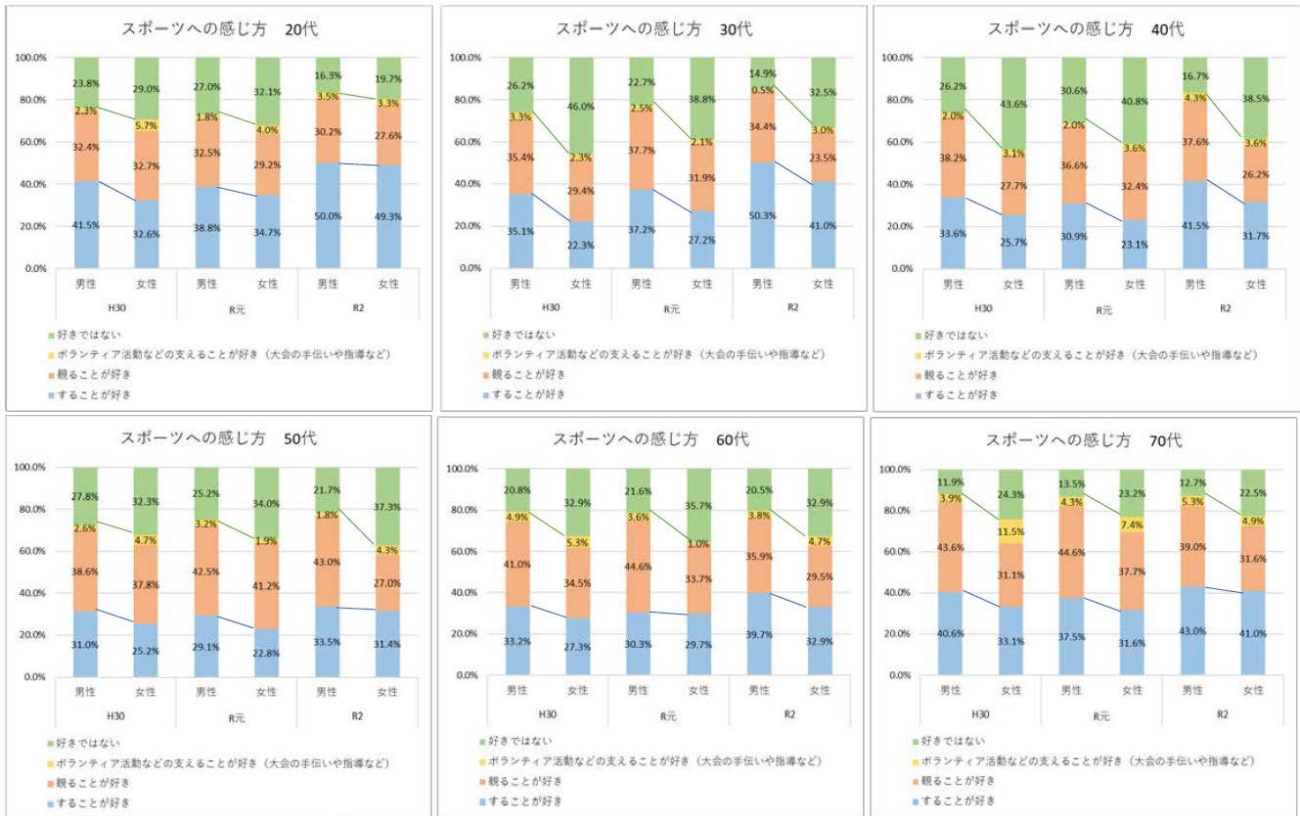
(1) 達成状況

項目	目標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
成人の実施率（週1日以上）	65.0%	54.8%	40.5%	39.4%	49.3%	52.6%	48.7%	56.3%	55.8%	64.5%
成人の実施率（週3日以上）	30.0%	26.0%	16.1%	16.1%	23.4%	26.8%	24.3%	28.9%	29.1%	33.5%
ボランティア参加率	10.0%	12.5%	7.8%	6.4%	6.0%	6.2%	6.6%	7.2%	6.1%	7.0%

(2) 令和2年度横浜市民スポーツ意識調査の結果より

ア スポーツへの感じ方

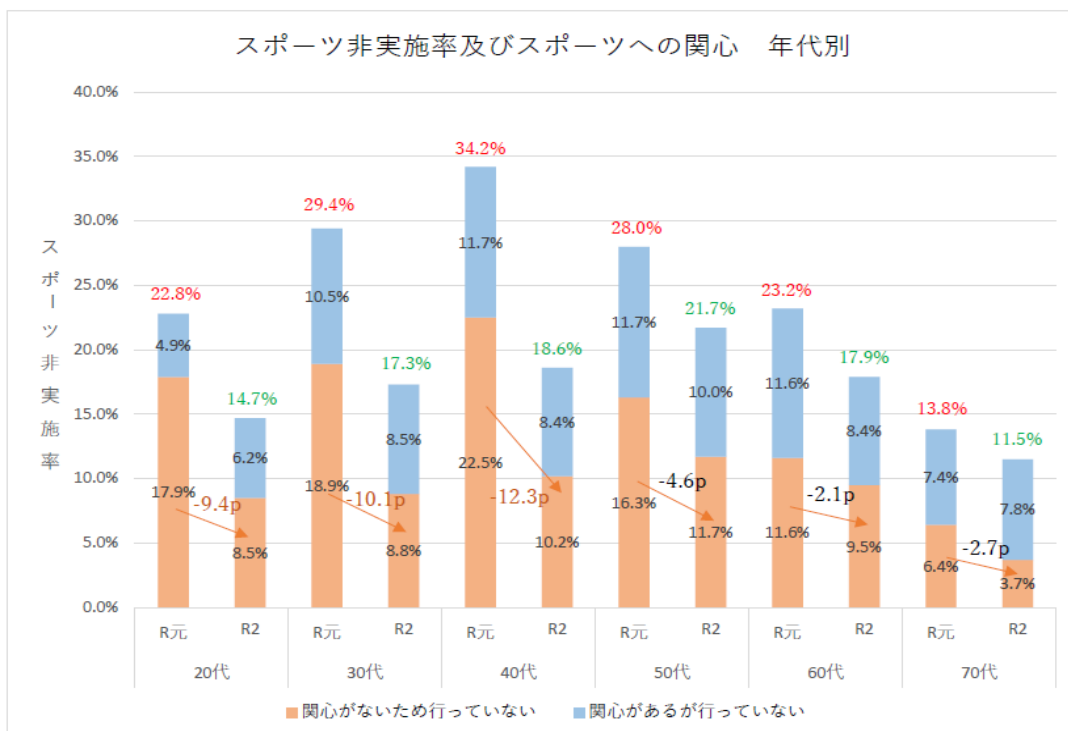
女性は男性と比較して、どの年代も「することが好き」の割合が低く、「好きではない」の割合が高い。



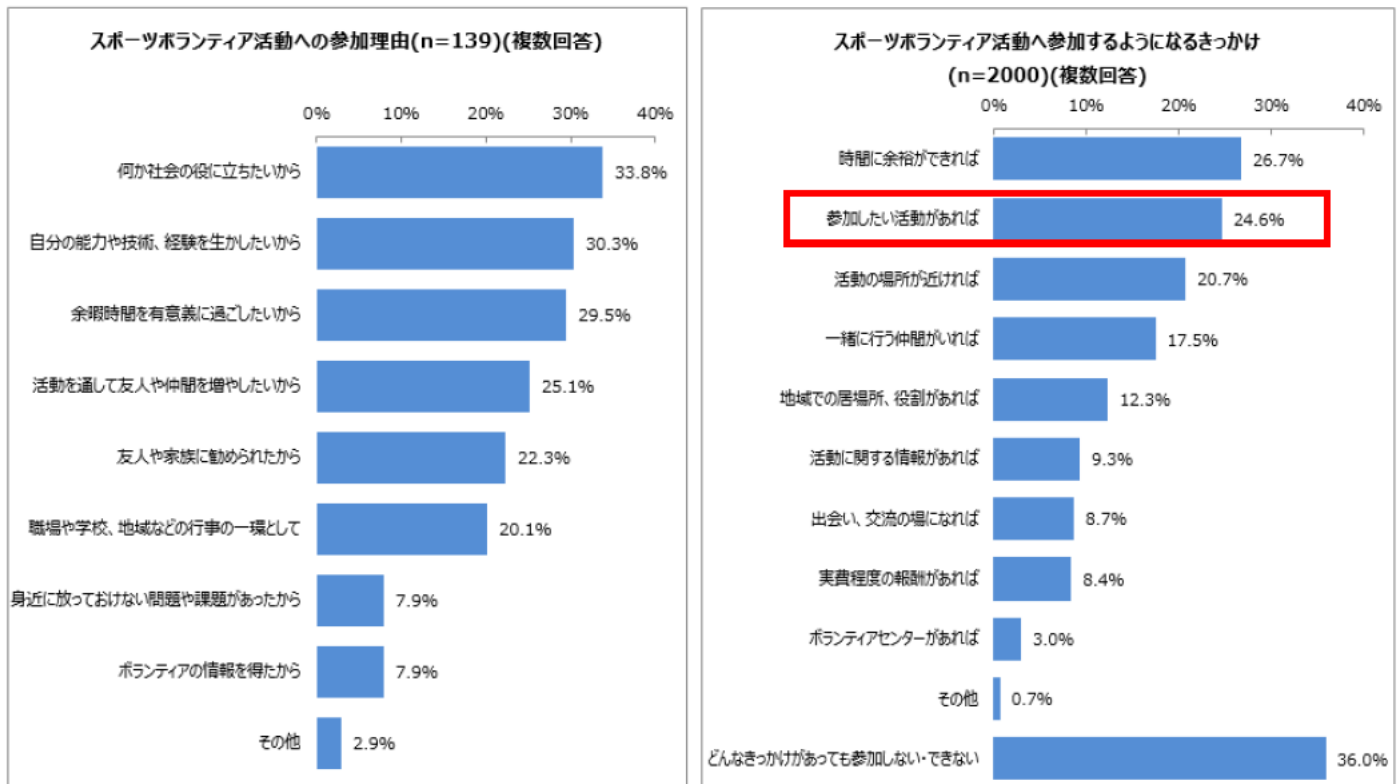
イ スポーツ非実施率及びスポーツへの関心 (年代別)

令和元年度は40代、30代、50代の順でスポーツ非実施率が高い。令和2年度は50代、40代、60代の順でスポーツ非実施率が高い。

20代、30代、40代は、他の世代と比べ「関心がないため行っていない」が大きく減少している。



ウ スポーツボランティア活動参加理由・きっかけ（令和2年度）



(4) 目標に対するこれまでの御意見（抜粋）

ア スポーツ実施率について

- (ア) コロナ禍でスポーツへの関心が高まったが、これを一過性のものとせず、継続できる施策が必要。
- (イ) スポーツ実施率向上にあたっては「横浜らしい取組」が必要だが、この「横浜らしさ」についてはより具体的な議論が必要である。（競技スポーツの面では、ラグビー、野球、バスケットボール、トライアスロン等と関連付けた取組など）
- (ウ) プロの試合を間近で観戦した後、プロと同じコートで子どもたちがスポーツを行える仕組みづくりを行うことで、「観る」から「する」に繋げる機会を創出できるのではないかな。
- (エ) トップスポーツチームと連携し、コロナ禍で選手たちがどのように身体活動を維持しているのか、広報などで届ける取組があると、選手を身近に感じ、スポーツ実施率や観戦率に繋がるのではないかな。

イ 女性のスポーツ実施率について

- (ア) 女性のスポーツ実施率へのアプローチとして、「さわやかスポーツ・ゆるスポーツなどの軽スポーツ」をレクリエーションスポーツとくくるなど、より気軽に入りやすいよう提示することや、言葉を工夫することで、子育て世代など現在スポーツを行えていない方が入りやすくなる。
- (イ) スポーツ広報の際に意識的に女性（アクティブな女性）を載せることにより、昔の「女の子はままごと遊び」というような無意識の差別をなくすことが重要である。

(ウ) 女性のスポーツ参加にあたり、フランスでは産後ケアの一つとしてスポーツを導入し、効果があった。出産後は骨盤が開き怪我をしやすいため、骨盤を元に戻すことから入るスポーツレクリエーションや、子どもと親と一緒にスポーツを行うコアラビクスなどを導入するとよい。

ウ 子育て世代の実施率について

(ア) 子育てや介護などで自分のためだけの時間を取るのが難しい方に向けた、誰かのために参加できるスポーツイベントを企画することで、スポーツに関わる機会を増やせるのではないか。

エ スポーツボランティア活動

※ 成人のスポーツボランティア参加についての御意見は、現時点でいただいておりません。

目標 3 高齢者・障害者スポーツの推進	
目標値	<p>①高齢者スポーツの推進 65歳以上の週1回以上のスポーツ実施率が70%程度となることを目標とします。</p> <p>②障害者スポーツの推進 障害者（成人）の週1回以上のスポーツ実施率が40%程度となることを目標とします。</p>
振り返り	<p>①高齢者スポーツの推進 65歳以上の実施率は、数値を取り始めた平成27年度以降、毎年目標を達成している。令和2年度に目標値を10ポイント以上超える結果となった。 目標値については成人の実施率に比べて数値を高く設定しており、インターネット調査は実態の実施率に対し多少バイアスがかかる可能性もあるため、次期計画で目標値をさらに高く設定すべきかどうかは、慎重に検討する必要がある。</p> <p>②障害者スポーツの推進 平成29年度の間見直しで新たに盛り込んだ障害のある方のスポーツ実施率は、目標を18.3ポイント上回り、目標を達成した。 こちらも成人の実施率同様、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられるが、この結果が一過性のものであるかどうかを慎重に見極め、次期計画の目標値を設定する必要がある。</p>
取組	別紙4～5、8～10、12、14、17、19、21、24～30を参照

(1) 達成状況

項目	目標	H27	H28	H29	H30	R1	R2
65歳以上の実施率（週1日以上）	70.0%	72.0%	72.8%	70.2%	74.1%	74.8%	80.2%
障害のある方の実施率（週1日以上）	40.0%	—	—	—	38.5%	36.7%	58.3%

(2) 目標に対するこれまでの御意見（抜粋）

ア 高齢者スポーツについて

- (ア) 平成27年に72%だった実施率が80%になった。実施率が向上したのは非常に素晴らしいことだが、それによって何が変わったのか。いわばアウトカムの視点が非常に重要ではないか。
- (イ) インターネット環境の調査は、傾向としてはある程度のものが取れるが、多少バイアスがかかっている可能性があるため、目標の達成状況に関して慎重に見極める必要がある。

イ 障害者スポーツについて

- (ア) パラリンピアンとの触れ合いは、ダイバーシティやインクルージョンの側面からも子ども達にとって大変価値のあるものであり、今後も講義と体験を通じて、障害者に対する子ども達の意識を変え、レガシーとして一生の財産となるようなものにしていただきたい。
- (イ) 健常者と障害者がともに利用される施設を増やしていくために、各区のスポーツセンターと横浜ラポールが双方向の連携を十分に行うとともに、必要な施策を検討していくことが必要。
- (ウ) 今後の障害者スポーツ振興体制のあり方については、裾野を広げる普及啓発と競技力の向上の両面が重要。

- (エ) トップアスリートの発掘・育成など競技力の向上については、健常者の競技団体との連携体制が有意義である。また、パラリンピック独自の種目の普及啓発等については、障害者スポーツの裾野を広げ、振興できる体制の検討が必要。
- (オ) 健常者に対する障害者スポーツへの理解促進は行われているが、障害者に対するスポーツ・レクリエーションの普及啓発や、これを支える人材育成をより一層地域で進めていくことが必要。

目標 4 トップスポーツとの連携・協働の推進	
目標値	トップアスリートが参加するスポーツ大会やプロスポーツを間近で観戦した市民の割合が50%以上となることを目標とし、市民がトップアスリートに触れる機会を増やし、スポーツを行う意欲の向上につなげます。
振り返り	<p>トップスポーツ観戦率は、目標を20.3ポイント下回り、目標を達成していない。</p> <p>実施率の推移をみると例年ほぼ横ばいとなっており、新型コロナウイルス感染症の影響によりトップアスリートが参加する大規模大会等の開催が制限されていたものの、観戦率に大きな影響はなかった（下記、(1)達成状況を参照）。</p> <p>その理由として、「好きな種目・競技だから」会場で観戦したと答える割合が6割以上を占めていることから、コロナ禍においても上記理由であれば会場に観戦しに行くと考えられる。（下記、(2)令和2年度横浜市民スポーツ意識調査の結果よりを参照）</p> <p>コロナ禍において、観客収容数の減や、観戦スタイルの多様化が進んでいく中で、今後も会場での観戦に興味を持ってもらえるような取組を検討していくことが、観戦率に繋がると考えられる。</p> <p>一方で、現地での観戦だけでなく、多様な観戦スタイルに応じた検討も必要である。</p>
取組	別紙2、3、5、6、8、11、15、16、20、23を参照

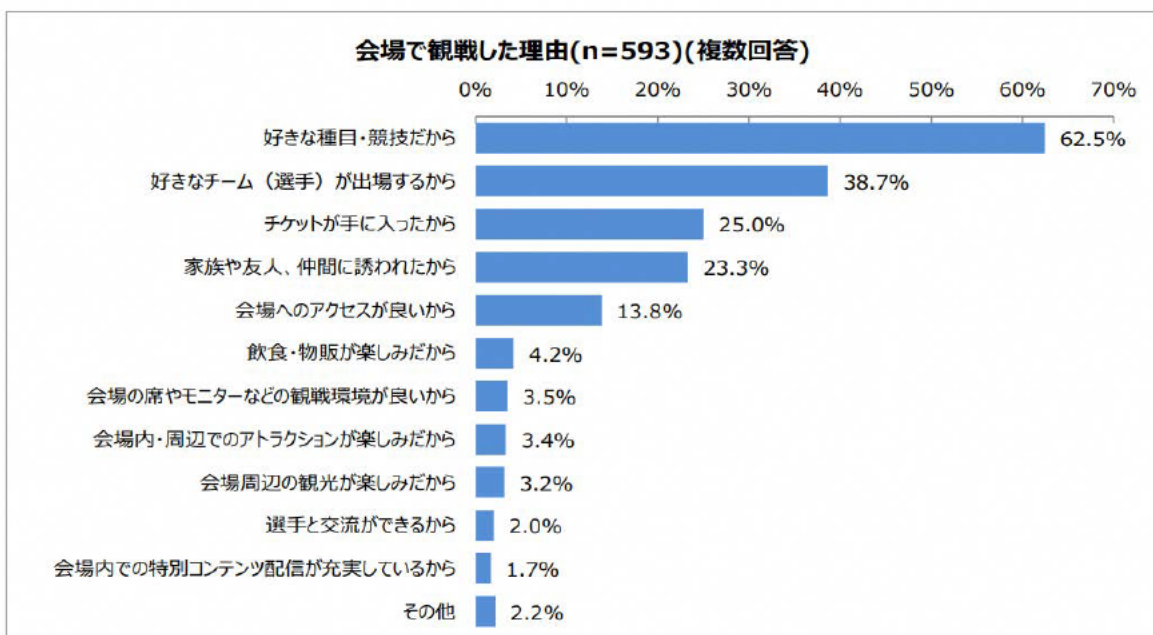
(1) 達成状況

※ H25はプロ・アマ問わず

項目	目標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
トップスポーツ観戦率	50.0%	43.5%	35.5%	23.6%	35.1%	30.5%	29.3%	31.7%	30.2%	29.7%

(2) 令和2年度横浜市民スポーツ意識調査の結果より

会場で観戦した理由（令和2年度）



(2) 目標に対するこれまでの御意見（抜粋）

ア 施設整備に際し、コンテンツホルダーをはじめとした、多様なステークホルダーが構想段階から関わることで、魅力的なスタジアムになり、観戦の動機づけに繋がる。

イ トップスポーツチームと連携し、コロナ禍で選手たちがどのように身体活動を維持しているのか、広報などで届ける取組があると、選手を身近に感じ、スポーツ実施率や観戦率に繋がるのではないか。（再掲）

横浜市スポーツ推進計画 主な取り組みについて

番号	主な取組	4つの目標					H29の実績	H30の実績	R元の実績	R2の実績	所管
		子ども	地域	高齢者	障害者	トップ					
1	幼児期における運動習慣の啓発・普及活動	○					<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつキンダー事業(※)の実施(実施回数等:187回、82園参加者数:4,753人) ・子育て支援拠点にて、親子やパパママ向けのスポーツ指導を実施(17回) <small>(※保育所にスポーツ指導者等を派遣し、遊びながら体を動かす楽しさを子どもたちに伝えていく事業)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつキンダー事業の実施(実施回数等:201回、68園参加者数:5,955人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつキンダー事業の実施(実施回数等:304回、62園参加者数:9,305人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつキンダー事業の実施(実施回数等:175回、23園参加者数:5,147人) 	市民局
2	学齢期の子どもの体力向上事業の実施及び拡充	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきキッズ事業(※)の実施(実施回数等:766回、298校参加者数:87,501人) <small>(※小学校の中休みや放課後の時間にスポーツ指導者や地域の協力者を派遣し、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を提供する事業)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきキッズ事業の実施(実施回数等:672回、291校参加者数:80,812人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきキッズ事業の実施(実施回数等:705回、159校参加者数:76,829人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきキッズ事業の実施(実施回数等:120回、43校参加者数:11,605人) 	教育委員会	
						<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力調査の実施:小中学校全児童生徒 ・「体育・健康プラン」作成:小中学校全校 ・体力向上1校1実践運動:小中学校全校 ・体力向上研究校:12校(小8校、中4校) ・健康・体力づくり推進協議会:1回(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・体力づくり推進協議会の実施 ・「体力・健康を切り口としたカリキュラム・マネジメント」としての体力向上への取組について推進担当者へ発信:317校 ・「体育・健康プラン」の実態分析や取組を検討する際の視点について周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全小中学校全児童生徒を対象に「体力・運動能力調査」の実施、結果まとめ、発信 ・「体育・健康プラン」の作成 ・体力向上1校1実践運動:全校実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力調査の中止を受け、市の体力・運動能力調査を一律では実施せず、希望校のみの任意調査とした。 		
3	食育の推進	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進研修会の開催(7月26日、南公会堂)参加者:約500人、食育実践推進校の実践提案 ・食育プロジェクトの運営(6回) ・食育実践推進校の指定 新規(小学校4校、中学校2校)、継続(小学校4校、中学校3校、高校1校、特別支援学校1校) ・出前授業の実施 横浜F・マリノス食育教室:51校、味の素:38回、日本醤油協会:30回、(株)明治:31校、タカナン乳業:10校など ・栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築(ネットワーク数:68) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進研修会の開催(7月25日、南公会堂)参加者:471人、食育実践推進校の実践提案 ・食育プロジェクトの運営(2回) ・食育実践推進校の指定 新規(小学校9校、中学校1校)、継続(小学校4校、中学校2校) ・出前授業の実施 横浜F・マリノス食育教室:42校、味の素:14回、日本醤油協会:12回、(株)明治:26校、タカナン乳業:10校など ・栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築(ネットワーク数:69) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進研修会の開催(7月24日、南公会堂)参加者:502人、食育実践推進校の実践提案 ・食育プロジェクトの運営(3回) ・食育実践推進校の指定 新規(小学校1校、中学校2校、特別支援学校2校)、継続(小学校10校、中学校1校) ・出前授業の実施 横浜F・マリノス食育教室:29回、味の素:13回、(株)明治:35回、タカナン乳業:8回など ・栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築(ネットワーク数:69) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進研修会は中止し、市ホームページで資料掲載。 ・食育実践推進校の指定 新規(小学校7校、中学校7校)、継続(小学校4校、中学校1校、特別支援学校2校) ・出前授業の実施 横浜F・マリノス食育教室:14回、味の素(株):14回、日本醤油協会:6回、(株)明治:25回など ・栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築(ネットワーク数:71) 	教育委員会	

4	総合型地域スポーツクラブの育成・活動支援及び連携・協働の推進	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市内総合型地域スポーツクラブ設置数（平成30年4月現在）設立済み：13区26クラブ ・KAZUスポーツクラブ、NPO法人スポーツコミュニティ・シュートに対する助成 ・横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（4回）、クラブ実務者会議（1回）を開催し ・神奈川県内の5クラブが連携し、第5回神奈川県総合型スポーツレクリエーションフェスティバル・スポーツ屋台村を開催（参加者数約2,000人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内総合型地域スポーツクラブ設置数（平成31年4月現在）設立済み：13区26クラブ ・第1回サマースポーツフェスティバルの開催（カヌー体験、参加者数102人） ・神奈川県内の5クラブが連携し、第5回神奈川県総合型スポーツレクリエーションフェスティバル・スポーツ屋台村を開催（参加者数約1,200人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内総合型地域スポーツクラブ設置数（令和2年4月現在）設立済み：13区26クラブ ・横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（4回）、クラブ実務者会議（1回）を開催 ・第2回サマースポーツフェスティバルを開催（カヌー体験、参加者数150人） ・第6回神奈川県総合型スポーツレクリエーションフェスティバル・スポーツ屋台村（新型コロナウイルス感染症対策のため中止） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内総合型地域スポーツクラブ設置数（令和3年4月現在）設立済み：14区27クラブ ・横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の会議開催（4回：書面開催） ・新型コロナウイルス感染症対策のため、例年開催しているイベントは中止 	市民局
5	トップアスリートとの連携・協働の推進	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問など合計79件の事業を実施（参加者数：延べ67,157人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問など合計69件の事業を実施（参加者数：延べ25,108人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問など合計94件の事業を実施（参加者数：延べ28,016人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問など合計65件の事業を実施（参加者数：延べ7,652人） 	市民局
6	プロスポーツチーム等との連携・協働の推進	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・市内4つのプロスポーツチームと連携し、プロスポーツ選手等のチーム関係者が学校や地域でのスポーツ教室やイベントに参加 ・各チームが企画する市民招待等の広報を連携して進めることで、市民に対する観戦機会を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の学校や地域のイベントにおいて、選手等のチーム関係者によるスポーツ教室等を開催し、市民に対してスポーツに親しむ機会を提供 ・各チームが企画する市民招待等の広報を連携して進めることで、市民に対する観戦機会を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の学校や地域のイベントにおいて、選手等のチーム関係者によるスポーツ教室等を開催し、市民に対してスポーツに親しむ機会を提供 ・各チームが企画する市民招待等の広報を連携して進めることで、市民に対する観戦機会を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜スポーツパートナーズを発足 ・地域のイベント等において、選手等のチーム関係者によるスポーツ教室等を開催（新型コロナウイルス感染症や台風の影響により、一部中止） ・各チームが企画する市民招待等の広報連携（新型コロナウイルス感染症の影響により、一部未実施） 	市民局
7	地域スポーツ指導者の養成・活用		○			<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市体育協会により、横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を実施 合計：196人 ・人材養成活用システム 登録者：202人、活用件数：10,706件、登録者による指導受講者数：237,833人 ・地域スポーツ人材活用システム全体研修：91人 ・人材活用システム登録者の中から、地域の要望に応じてスポーツ指導者を派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市体育協会により、横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を実施 合計：164人 ・人材養成活用システム 登録者：239人、活用件数（延べ）：23,948件、登録者による指導受講者数（延べ）：731,015人 ・地域スポーツ人材活用システム全体研修：全12回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市体育協会により、横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を実施 合計：196人 ・人材養成活用システム 活用件数（延べ）：24,996件、登録者による指導受講者数（延べ）：673,976人 ・地域スポーツ人材活用システム全体研修：全12回実施 ・人材活用システム登録者の中から、地域の要望に応じてスポーツ指導者を派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市スポーツ協会により、横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を実施 合計：29人 ・人材活用システム 活用件数（延べ）：12,118件、登録者による指導受講者数（延べ）：238,065人 ・地域スポーツ人材活用システム全体研修：1回実施（オンライン） ・人材活用システム登録者の中から、地域の要望に応じてスポーツ指導者を派遣 	市民局

8	大規模スポーツイベントの誘致・開催支援	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第32回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月16日／1,050人） ・2017世界トライアスロンシリーズ横浜大会（5月13,14日／305,000人） ・第34回全日本少年軟式野球大会（8月7～10日／11,431人） ・第27回世界少年野球大会（8月8～16日／※観戦者の計数無し） ・2017全日本ジュニア体操競技選手権大会（第42回）（8月12～17日／8,000人） ・2017国際ジュニア体操競技大会（9月17,28日／2,000人） ・キリンチャレンジカップ2017（対ハイチ代表）（10月10日／47,420人） ・バドミントンS/Jリーグ2017横浜大会（1月14日／2,700人） ・第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会（1月28日～2月1日／12,942人） ・FIBAバスケットボールワールドカップ2019アジア地区1次予選（対チャイニーズ・タイペイ）（2月22日／5,021人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・LION ITTF-ATTUアジアカップ横浜2018（4月6～8日／4,638人） ・第33回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月22日／1,090人） ・2018世界トライアスロンシリーズ横浜大会（5月12～13日／421,000人） ・キリンチャレンジカップ2018（対ガーナ代表）（5月30日／約64,520人） ・2018全日本ジュニア体操競技選手権大会（第43回）（8月12～17日／約8,000人） ・第35回記念全日本少年軟式野球大会（8月13～16日／約12,500人） ・第94回日本学生選手権水泳競技大会（9月7～9日／14,741人） ・2018ジャパンパラ水泳競技大会（9月22～24日／4,679人） ・2018女子バレーボール世界選手権（横浜会場）（9月29日～10月20日／約58,000人） ・レッドブル・クラッシュドアイス横浜（12月7～8日／約10,000人） ・ノジマTリーグ2018-2019シーズン（2月9～10日／4,677人） ・横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント2019（2月25日～3月10日／1,967人） ・キリンチャレンジカップ2019（対コロンビア代表）（3月22日／63,302人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・LION ITTF-ATTUアジアカップ横浜2019（4月5～7日／5,098人） ・第34回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月21日／1,500人） ・IAAF世界リレー2019横浜大会（5月11,12日／36,170人） ・2019世界トライアスロンシリーズ横浜大会（5月18～19日／465,000人） ・第36回全日本少年軟式野球大会（8月12～15日／約16,000人） ・2019全日本ジュニア体操競技選手権大会（8月12～17日／約8,000人） ・2019ジャパンパラ水泳競技大会（9月22～24日／5,629人） ・FIVBワールドカップバレーボール2019（女子横浜大会）（9月14～16日、18～19日／54,489人） ・第21回Wリーグ横浜大会（10月26日／1,909人） ・Tリーグ公式戦（木下アビエル）（1月25,26日／2,537人） ・レッドブル・アイスクロスワールドチャンピオンシップ横浜2020（2月15日／7,000人） ・慶應チャレンジャー国際テニストーナメント2020女子大会（3月2日～8日／無観客） ・ノジマTリーグ2018-2019シーズン（2月9～10日／4,677人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント2020男子大会（4/13～19）※ ・第35回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4/19）：新型コロナウイルスの影響により日程・会場変更（12/27東京・講道館で開催） ・2020世界トライアスロンシリーズ横浜大会（5/16,17）※ ・「Yokohama Future Project」4事業実施 ①山下公園を走ろう！キッズファンラン 【開催日】11月21日（土）【参加者数】23人 ②横浜トライアスロンセミナー2020 【開催日】11月23日（月）、12月6日（日）、12月19日（土） 【参加人数】合計68人 ③Green Triathlon 横浜SDGs 【開催日】11月21日（土）【来場者数】629人 ④World Triathlon Yokohama Online 【開催期間】12月1日（火）～1月11日（月）【参加者数】359人 ・2020ジャパンパラ水泳競技大会（5/22～24）※ ・競泳 ジャパンオープン（6/4～7）※ ・第37回全日本少年軟式野球大会（8/17～20）※ ・2020年度第17回全国小学生学年別柔道大会（8/30）※ ・2020全日本ジュニア体操競技選手権大会（9/20～22）※ ・ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン バドミントン選手権大会（9/22～27）※ ・バドミントンS/Jリーグ2020（1/10）※ ・第38回日本カーリング選手権大会（2/6～14）：新型コロナウイルスの影響により日程・会場変更（2/7～14北海道・稚内市で開催） ・横浜慶應チャレンジャー国際 	市民局
---	---------------------	---	---	---	---	---	---	--	--	-----

												テニストーナメント 2021 (2~3月) ※ ・第 34 回近代柔道杯全国中学生柔道大会 (3/27、28) ※ ※→新型コロナウイルスの影響により中止	
9	横浜マラソンの実施		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・本大会：未開催（台風の影響のため） ・区役所等と連携し、「横浜マラソンチャレンジ枠」対象事業を実施 ・プレイベントの実施（7/9 横浜・八景島シーパラダイス 495 名参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜マラソン EXP02018 (10/26~28、来場者 87,478 人（3日間合計）） ・横浜マラソン (10/28) フルマラソン 26,779 人 1/7 フルマラソン 957 人 1/7 フルマラソン (車いす) 6 人 2 km (車いす) 83 人 沿道応援者数 約 68.4 万人 ボランティア数 7,617 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜マラソン EXP02019 (11/8~9 来場者 40,495 人（2日間合計）） ・横浜マラソン 2019 (11/10) フルマラソン：26,892 人 1/7 フルマラソン：998 人、 1/7 フルマラソン (車いす)：9 人 2 km (車いす)：93 人 沿道応援者数：約 68.8 万人 ボランティア数：8,928 人 	<ul style="list-style-type: none"> ※「横浜マラソン 2020」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止 ・「オンライン横浜マラソン」開催 【第 1 回】11/1~11/14 種目：フルマラソン、ハーフマラソン、10km 参加人数：1,992 人（フルマラソン：1,068 人、ハーフマラソン：489 人、10km：435 人） 【第 2 回】12/1~12/14 種目：フルマラソン、ハーフマラソン、10km 参加人数：1,416 人（フルマラソン：875 人、ハーフマラソン：336 人、10km：205 人） 	市民局			
10	市民参加型スポーツイベントの充実		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2017 (9 月~11 月：51,928 名参加) ・YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ 2017 (7 月 29、30 日、8 月 5、6 日：5,705 名参加) ・市民体育大会・マスターズスポーツ大会 (50,845 名参加) ・区民体育大会 (430,821 名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2018 (9 月~11 月：64,722 名参加) ・YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ 2018 (7 月 29 日、8 月 4、5 日：4,298 名参加) ・市民体育大会・マスターズスポーツ大会 (52,849 名参加) ・各区交流スポーツ大会 (1,733 名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2019 (9 月~11 月：47,537 名参加) ・YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ 2019 (7 月 27、28 日、8 月 3、4 日：5,333 名参加) ・市民体育大会・マスターズスポーツ大会 (43,447 名参加) ・各区交流スポーツ大会 ・第 10 回横浜シーサイドトライアスロン大会 (9 月 27 日：661 名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「第 11 回横浜シーサイドトライアスロン大会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止 ・YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ 2020 (8/1、2)：新型コロナウイルスの影響により中止 ・スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2020 (9 月~11 月：2,900 名参加) 	市民局			
11	国際交流の推進		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・仁川広域市への選手団派遣（派遣期間：8 月 17 日~20 日、派遣人員：22 名、種目：ジュニアサッカー (小学生 6 年生)） (2) 台北市への選手団派遣（派遣期間：11 月 16 日~19 日、派遣人員 17 名、種目：女子バスケットボール (高校生)） 	<ul style="list-style-type: none"> ・仁川広域市の選手団の受入（受入期間：8 月 7 日~10 日、受入人員：24 名、種目：ジュニアサッカー (小学生 6 年生)） ・台北市の選手団の受入（受入期間：11 月 28 日~12 月 1 日、受入人員 21 名、種目：女子バスケットボール (高校生)） 	<ul style="list-style-type: none"> ・仁川広域市への選手団の派遣（派遣期間：7 月 29 日~8 月 1 日、派遣人員：22 名、種目：ジュニアサッカー (小学生 6 年生)） ・台北市への選手団の派遣（受入期間：11 月 24 日~11 月 27 日、派遣人員 17 名、種目：女子バスケットボール (高校生)） 	<ul style="list-style-type: none"> ・仁川広域市の選手団の受入 ※新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年延期 ・台北市の選手団の受入 ※新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年延期 	市民局			

12	全市民で取り組む健康づくりの推進		○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・よこはまウォーキングポイント事業：累計参加登録者数 300,306 人（単年度参加者数：67,714 人） ・スマートフォンでも参加できる歩数計アプリを開発（30 年 4 月運用開始） 	<ul style="list-style-type: none"> ・よこはまウォーキングポイント事業：累計参加登録者数 322,352 人（単年度参加者数：22,046 人） ・4 月にスマートフォン用の歩数計アプリの配信を開始 ・40 歳未満の参加者の比率が 6.6%から 9.6%に増 	<ul style="list-style-type: none"> ・よこはまウォーキングポイント事業：累計参加登録者数 337,819 人（単年度参加者数：15,467 人） 65 歳未満の参加者が 50%以上に。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よこはまウォーキングポイント事業：累計参加登録者数 348,886 人（単年度参加者数：11,067 人） 研究機関との共同研究により、継続参加者の高血圧新規発症抑制効果及び、高齢者の運動機能維持の効果を確認し、公表。 	健康福祉局
13	働き世代・女性のスポーツ・運動の推進		○			<ul style="list-style-type: none"> ・横浜健康経営認証事業所数：57 事業所 ・認証事業所に対し、専門家派遣を行い、従業員向けの運動講座を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜健康経営認証事業所数：199 事業所 ・健康経営支援拠点の設置：LINKAI 横浜金沢（合計設置数 2 か所） ・健康経営支援拠点でのセミナー開催：合計 13 回、参加者のべ 413 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜健康経営認証事業所数：200 事業所 ・健康経営支援拠点の設置：横浜駅ウエルネスセンター（合計設置数 3 か所） ・健康経営支援拠点でのセミナー開催：合計 26 回、参加者のべ 466 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜健康経営認証実績（今年度認証 323 事業所、横浜健康経営認証を有する市内事業所 659 事業所） ・企業集積地における企業の健康経営の取組を支援する健康経営支援拠点の運営支援（市内 3 か所） ・健康経営支援拠点でのセミナー開催：合計 21 回、参加者のべ 920 人 ・健康経営に取り組む市内事業所の労働生産性損失及び離職率等、健康経営の効果を測定 	経済局
14	スポーツ・レクリエーション活動の推進	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・各区におけるヨコハマさわやかスポーツ（※¹）の普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）（開催回数 9,680 回、参加人数 291,011 人） ・スポーツ・レクリエーションフェスティバル in みなとみらい（9 月 10 日 参加者数：870 人） ・30 周年記念グランドゴルフ交流会 in 新横浜公園（12 月 3 日、参加者数：103 人） ・シニアの祭典（※²）（横浜市老人クラブ連合会主催、3 月 1 日参加者数：約 1,500 人） <p><small>（※¹ヨコハマさわやかスポーツ対象種目：ディスクゴルフ、インディアカ、バウンドテニス、フェザーテニス、グラウンドゴルフ、ベタング、チェックボール、シャッフルボード、ソフトバレーボール、輪投げ、ポッチャ）</small></p> <p><small>（※横浜市老人クラブ連合会主催。健康づくり・介護予防のため、気軽に楽しめるシニアスポーツの紹介及び老人クラブ会員がこれまで取り組んできた文化活動等も紹介する場²）</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各区における普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）（開催回数 10,816 回、参加人数 310,973 人） ・シニアの祭典（横浜市老人クラブ連合会主催）（3 月 1 日 参加者数 1,514 人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各区における普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）（開催回数 11,268 回、参加人数 327,459 人） ・シニアの祭典（横浜市老人クラブ連合会主催）（2 月 27 日）※新型コロナウイルス感染症対策のため中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・各区における普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）（開催回数 3,488 回、参加人数 65,879 人） ・全市民的な活動 ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止 	市民局

15	スポーツボランティアの育成・活用支援		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・センター登録者数：3,260人 ・ボランティア研修会開催（3月） ・活動実績：横浜マラソンプレイベント、横浜マラソン2017EXPO、第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会、第28回よこはまシティウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター登録者数：10,464人（H31.3.31現在） ・ボランティア研修会「パラリンピックへの挑戦を通して」（参加者：218人） ・活動実績：横浜マラソン2018、横浜マラソン2018プレイベント、東京2020大会「横浜市都市ボランティア」、2019ITU世界トライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター登録者数：12,977人（R2.3.31現在） ・活動実績：2019ITU世界トライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会、横浜マラソン2019、東京2020大会「横浜市都市ボランティア」、ラグビーワールドカップ2019横浜大会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター登録者数：13,076人（R3.3.31現在） ・活動実績：新型コロナウイルス感染症対策によるイベント中止のため実績なし ・募集実績：「ワールドトライアスロンシリーズ・ワールドトライアスロンパラシリーズ（2021/横浜）」に向け3/19～28に実施（747人申込） 	市民局
16	スポーツツーリズムの推進		○		○	取組8と同様			市民局	
17	スポーツ情報等の提供	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営（年間アクセス数2,650,907件） ・SPORTSよこはまの発行：年6号発行/1回3万部 合計18万部、 ・SNSによる情報発信（Twitter（hamasupo.com）ツイート数971、フォロワー数171、Facebook いいね！数130、Youtube動画再生数67,457） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営（年間アクセス数3,041,272件） ・SPORTSよこはまの発行：発行部数年6号発行/1回3万部 合計18万部 ・SNSによる情報発信：twitterツイート数540件、twitterフォロワー数62増（累計30,029）、facebook「ハマスポ」サイトアカウントへのいいね！数42増（累計1,016）、youtube再生数36,521件 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営（年間アクセス数3,604,141件） ・SPORTSよこはまの発行：発行部数180,000部（30,000部/1回）、隔月年6回（6・8・10・12・2・4月号）、ページ数等：16ページ（フルカラー） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営（年間アクセス数2,528,052件） 	市民局
18	スポーツ推進委員や、地域スポーツ団体、地域スポーツ・レクリエーション団体、企業との連携・協働の推進		○			<ul style="list-style-type: none"> ・市全体研修会の実施 平成29年度横浜市スポーツ推進委員大会 講演（1月21日、南区公会堂「みなみん」、参加者約520人、講師 上原 大祐 テーマ「「東京2020はゴールではなく、スタートだ。～12年間のパラアスリート人生を次の世代に繋ぐために～」） ・さわやかスポーツ実技研修等を、各区協議会等で実施。 ・中堅研修として、スポーツリーダー養成講座を実施（主催：（公財）横浜市体育協会、後援：横浜市スポーツ推進委員連絡協議会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体研修会の実施 平成30年度横浜市スポーツ推進委員大会 講演（1月20日、関内ホール、参加者約1,000人、講師 三宅 敬氏 テーマ「原石からダイヤモンドへ」） ・地域の運動会や各種競技大会等の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体研修会の実施 令和元年度横浜市スポーツ推進委員大会 講演（1月21日、関内ホール、参加者約1,000人、講師 高橋 秀文氏 テーマ「共生社会実現への道～東京2020パラリンピックの成功に向けて～」） ・地域の運動会や各種競技大会等の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、市全体研修会は中止 ・地域の運動会や各種競技大会等の企画・運営 	市民局
19	身近なスポーツを行う場や機会の確保	○	○	○		9区において、舗装工事や案内板設置工事を実施	9ルートにおいて、案内板や距離標の設置、舗装の新設や補修などを実施	9ルートにおいて、整備計画の検討、案内板や道標の設置、舗装の新設や補修などを実施	緑区、磯子区など9区で、整備方針の検討、案内板や距離標の設置、舗装の新設や補修などを実施	道路局

20	横浜文化体育館<メインアリーナ施設・サブアリーナ施設（横浜武道館）>の再整備		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・1社から入札、提案（7月） ・落札（9月） ・事業者契約にかかる議会議決（12月） ・サブアリーナ施設（横浜武道館）の設計開始（12月） 	（サブアリーナ） 建築工事：山留工事、杭工事、掘削工事、土留め工事、基礎躯体工事、地上躯体工事、外装工事	（サブアリーナ） 整備工事：地上躯体工事、外装工事、屋根工事、内装工事、外構工事、電気工事、機械設備工事（メインアリーナ） 基本設計開始（2月）	（サブアリーナ） 施設整備完了（6月）、供用開始（7月） （メインアリーナ） 旧横浜文化体育館解体工事開始（11月）、基本設計完了（12月）、実施設計開始（1月）	市民局
21	学校体育施設（校庭、体育館等）を活用した地域スポーツの振興	○	○	○		学校教育や部活動に支障のない範囲で、市立学校施設を地域の身近なレクリエーション活動、文化活動、スポーツ活動の場として、地域に開放 利用件数：184,204件 登録団体：7,505件	学校教育や部活動に支障のない範囲で、市立学校施設を地域の身近なレクリエーション活動、文化活動、スポーツ活動の場として、地域に開放 利用件数：187,495件 登録団体：7680	学校教育や部活動に支障のない範囲で、市立学校施設を地域の身近なレクリエーション活動、文化活動、スポーツ活動の場として、地域に開放 利用件数：174,093件 登録団体：7797	学校教育や部活動に支障のない範囲で、市立学校施設を地域の身近なレクリエーション活動、文化活動、スポーツ活動の場として、地域に開放 ※新型コロナウイルスの影響で学校を開放していない期間あり 利用件数：96,974件 登録団体：7,881	教育委員会
22	横浜市スポーツ医科学センターとの連携・活用		○			<ul style="list-style-type: none"> ・指導者技術向上事業 13団体・1,149人 ・合同強化練習 17種目・2,417人 ・スポーツ医科学各種事業 ①ジュニア医科学マルチサポート（空手・体操）35人 ②スポーツ医科学研修：全5回・187人 ・未来のスポーツリーダー養成講座 ・少年サッカー選手のケガ予防講座！ 52人 ・オリンピック選手・スタッフによるケガ予防&走り方教室 51人 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者技術向上事業 13団体1,271人 ・合同強化練習 16競技 1,936人 ・スポーツ医科学各種事業 ①ジュニア医科学マルチサポート（空手・体操）37人 ②スポーツ医科学研修：全5回・62人 ・未来のスポーツリーダー養成事業 ①少年サッカー選手のための怪我予防講座 ②フィギュアスケート講座 計134人 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者技術向上事業 11団体922人 ・合同強化練習 14競技 2,287人 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者技術向上事業 13団体（うち7団体中止）270人 ・合同強化練習 16競技（うち8競技中止）473人 	市民局
23	スポーツ遺産の保存・活用		○		○	ワールドカップスタジアムツアー（開催日数：78日、参加人数：1,679人）※平成30年1～3月は改修工事のため非実施	ワールドカップスタジアムツアー（開催日数：115日、参加者人数：2,449名）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカップスタジアムツアー（開催日数：48日（RWCの開催に伴い、開催日数減少）、参加者人数：1,855名） ・RWC開催前年から「日本ラグビー協会とのコラボレーションによる企画展示（サイン入り代表ユニフォーム、ボール等）」を実施 ・大会後は、常設コーナーを設置（大会装飾や展示品等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカップスタジアムツアー（開催日数：4日、来場者数：195名）※コロナ禍により、10、11、12月に団体申込のみ受入れ実施 ・環境創造局会場整備課による「ミュージアム構想」に沿った記念展示施設の改修プランについて、ツアー運営側からのアドバイスをを行い、レガシーコンテンツとしての活用に向けた調整を実施 	環境創造局

24	高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施		○	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアの祭典（※）（会場：横浜文化体育館、実施日：平成30年3月1日、来場者：約1,500人） ・活動拠点型健康づくりモデル事業「ノルディック・ウォークの祭典」を実施 ①（会場：鶴見区三ツ池公園 実施日：11月6日 参加者：404人） ②（会場：旭区こども自然公園 実施日：12月15日 参加者：262人） <p>（※横浜市老人クラブ連合会主催。健康づくり・介護予防のため、気軽に楽しめるシニアスポーツの紹介及び老人クラブ会員がこれまで取り組んできた文化活動等も紹介する場）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアの祭典（会場：横浜文化体育館、実施日：平成31年3月1日、来場者：1,514人） ・活動拠点型健康づくりモデル事業「ノルディック・ウォークの祭典」を試行 ①（会場：鶴見区三ツ池公園 実施日：平成30年11月16日 参加者：421人） ②（会場：保土ヶ谷区保土ヶ谷公園 実施日：平成30年11月8日 参加者：246人） ③（会場：根岸森林公園 実施日：平成30年12月3日 参加者：243人） <p>⇒総参加者数910人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアの祭典（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） ・活動拠点型健康づくりモデル事業「ノルディック・ウォーク」の祭典を試行（荒天のため中止） 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアの祭典（会場：横浜武道館、実施日：令和3年4月15日（当初2月26日に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期）、来場者：約1,000人） ・活動拠点型健康づくりモデル事業「ノルディック・ウォーク」の祭典を試行（新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止） 	健康福祉局
25	地域の高齢者サークルの活動支援の推進		○	<ul style="list-style-type: none"> ・体操ひろ場（実施クラブ数：270クラブ、実施回数：それぞれ週2回から毎日の開催、延参加者数：178,229人） ・ゲートボール大会（32チーム選手179人他53人） ・グラウンド・ゴルフ大会（各区6人選手107人他34人） ・ペタンク大会（35チーム選手126人他37人） ・アストレへの挑戦事業（ノルディックウォーキング）（18区で実施それぞれ1回～3回開催 参加者：14区延約1,222人） ・スポーツリーダー養成講座 ①ペタンク講習会（会場：うらしま荘他、開催日：9月26日、10月3日、延受講者数40人） ②グラウンド・ゴルフ講習会（会場：うらしま荘他、開催日：9月21日、10月5日、延受講者数35人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操ひろ場（実施クラブ数：257クラブ、実施回数：それぞれ週2回から毎日の開催、延参加者数：約18万人） ・ゲートボール大会（30チーム選手184人） ・グラウンド・ゴルフ大会（選手105人） ・ペタンク大会（34チーム選手134人） ・スポーツリーダー養成講座 ①ペタンク講習会（会場：うらしま荘他、開催日：平成30年9月25日、10月2日、延受講者数47人） ②グラウンド・ゴルフ講習会（会場：うらしま荘他、開催日：平成30年9月27日、10月4日、延受講者数47人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操ひろ場（実施クラブ数：257クラブ、実施回数：それぞれ週2回から毎日の開催、延参加者数：約18万人） ・ゲートボール大会（実施日：平成31年4月4日 参加者：30チーム選手182人） ・グラウンド・ゴルフ大会（実施日：平成31年4月17日 参加者：選手108人） ・ペタンク大会（令和元年5月14日 参加者：33チーム選手127人） ・スポーツリーダー養成講座 ①ペタンク講習会（会場：うらしま荘他、開催日：令和元年9月24日、10月1日、延受講者数47人） ②グラウンド・ゴルフ講習会（会場：うらしま荘他、開催日：令和元年9月26日、10月3日、延受講者数47人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操ひろ場（実施クラブ数：313クラブ、実施回数：それぞれ週3階から毎日の開催、延べ参加者数141,089人） ・ゲートボール大会（新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止） ・グラウンド・ゴルフ大会（新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止） ・ペタンク大会（新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止） ・スポーツリーダー養成講座 ①ペタンク講習会（会場：うらしま荘他、開催日：令和2年11月19日、12月1日、延受講者19人） ②グラウンド・ゴルフ講習会（会場：うらしま荘他、開催日：令和2年11月5日、11月13日、延受講者数21人） 	健康福祉局
26	障害者が幼児期から運動に親しめる環境の整備		○	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の障害児を対象としたプログラム（卓球、ボッチャ、フライングディスク、ダンス等）の実施：48回（約100人参加） ・療育センターと連携した療育期の障害児を対象としたプログラム（レクリエーション・保護者向け啓発）の開発及び試行：10回（約150人参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の障害児を対象としたリハビリテーション・スポーツ教室（卓球、ボッチャ等）の実施：19回（78人参加） ・発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室：19回（339人参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の障害児を対象としたリハビリテーション・スポーツ教室（卓球、ボッチャ等）の実施：20回（151人参加） ・発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室：26回（332人参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の障害児を対象としたリハビリテーション・スポーツ教室（卓球、ボッチャ等）について、「初心者スポーツ体験教室」として行う予定だったがコロナの影響で中止 ・発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室は、「音楽に合わせて体を動かそう！」という名称の教室で実施：11回（67人参加） 	健康福祉局

27	地域での障害者スポーツ・レクリエーション活動の推進			○	<ul style="list-style-type: none"> 市内 18 区を対象にした出張スポーツ指導・地域支援事業 181 回 (2,702 人参加) 市内 9 区 (鶴見区・金沢区・戸塚区・旭区・瀬谷区・青葉区・栄区・港南区・磯子区) において、地域団体・市体協・横浜ラポールが連携し、障害者が各地域での教室・大会に参加できる環境 (地域ネットワーク) が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内各区へ出張スポーツ指導・地域支援事業 159 回 (4,276 人参加) 市内 9 区 (鶴見区・金沢区・戸塚区・旭区・瀬谷区・青葉区・栄区・港南区・磯子区) において、地域団体・市体協・横浜ラポールが連携し、障害者が各地域での教室・大会に参加できる環境 (地域ネットワーク) が整備されており、平成 32 年度末までに新たに 3 区で地域ネットワークを構築 	<ul style="list-style-type: none"> 市内各区へ出張スポーツ指導・地域支援事業 96 回 (3,981 人参加) 市内 9 区 (鶴見区・金沢区・戸塚区・旭区・瀬谷区・青葉区・栄区・港南区・磯子区) において、地域団体・市体協・横浜ラポールが連携し、障害者が各地域での教室・大会に参加できる環境 (地域ネットワーク) が整備されており、令和 2 年度末までに新たに 3 区で地域ネットワークを構築 	<ul style="list-style-type: none"> 市内各区へ出張スポーツ指導・地域支援事業 226 回 (2,770 人参加) 市内 12 区 (鶴見区・金沢区・戸塚区・旭区・瀬谷区・青葉区・栄区・港南区・磯子区・緑区・南区・神奈川区) において、地域団体・市スポーツ協会・横浜ラポールが連携し、障害者が各地域での教室・大会に参加できる環境 (地域ネットワーク) が整備されている。 	健康福祉局
28	障害者と健常者がともに楽しめるインクルーシブスポーツの推進		○	○	<p>障害の有無等にかかわらず、身近な地域で誰もがスポーツに親しめるよう、横浜市体育協会や健康福祉局、横浜ラポール等と連携し、スポーツ用具の貸出や研修会への案内、地域団体への助成や相談等の支援についての検討を実施。</p>	<p>障害の有無等にかかわらず、身近な地域で誰もがスポーツに親しめるよう、横浜市体育協会や健康福祉局、横浜ラポール等と連携し、スポーツ用具の貸出や研修会への案内、地域団体への助成や相談等の支援についての検討を実施。</p>	<p>(1) 地域におけるインクルーシブスポーツの推進【参加者：5,430 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> インクルーシブスポーツ推進事業への助成 (8 件) 17 区におけるインクルーシブスポーツ推進事業にかかる派遣指導 <p>(2) インクルーシブスポーツイベントの開催【参加者：7,522 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「インクルーシブ陸上 2019 in YOKOHAMA」(9 月 14 日) 「ヨコハマベイサイドスポーツカーニバル 2019」(11 月 16 日) <p>(3) ゆるスポーツの開発・普及【参加者：930 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆるスポーツ開発に関するイベント実施や HP 開設 ゆるスポーツ普及に関するイベント実施 	<p>(1) 地域におけるインクルーシブスポーツの推進【参加者：714 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> インクルーシブスポーツ推進事業への助成 (1 件) 18 区におけるインクルーシブスポーツ推進事業にかかる派遣指導 <p>(2) インクルーシブスポーツイベントの開催【参加者：202 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「インクルーシブスポーツフェスタ 2020」(11 月 14 日) <p>(3) ゆるスポーツの開発・普及【参加者：230 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆるスポーツ開発・普及に関するイベント実施 <p>(4) スポーツ団体等への障害者スポーツ普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内健常者スポーツ団体に対し、障害及び障害者スポーツに関する理解を深める内容の冊子を作成 (1,500 冊) 	市民局
29	障害者スポーツの支援者の育成・活躍支援			○	<ul style="list-style-type: none"> 市体協・地域ボランティア・学校など、地域へ出張研修会の実施 171 回 (10,723 人参加) 市内 9 区において、地域団体・市体協・横浜ラポールが連携し、障害者が各地域での教室・大会に参加できる環境 (地域ネットワーク) 整備 	<ul style="list-style-type: none"> 市体協・地域ボランティア・学校などを対象とした人材育成研修会の実施 133 回 (14,166 人参加) 地域へ出張スポーツ指導・地域支援事業 (159 回) を通じて、各地域に障害者スポーツのノウハウを提供 	<ul style="list-style-type: none"> 市体協・地域ボランティア・学校などを対象とした、人材育成研修会の実施 200 回 (12,600 人参加) 地域へ出張スポーツ指導・地域支援事業 (96 回) を通じて、各地域に障害者スポーツのノウハウを提供 	<ul style="list-style-type: none"> 市スポーツ協会・地域ボランティア・学校などを対象とした、人材育成研修会の実施 18 回 (422 人参加) 地域へ出張スポーツ指導・地域支援事業 (226 回) を通じて、各地域に障害者スポーツのノウハウを提供 	健康福祉局
30	障害者スポーツに対する理解の促進	○		○					